

## 日吉台地下壕保存の会

## 会報

## 第45号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

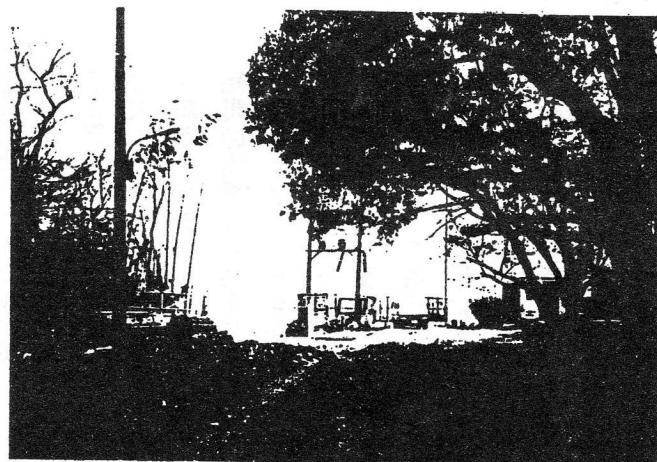
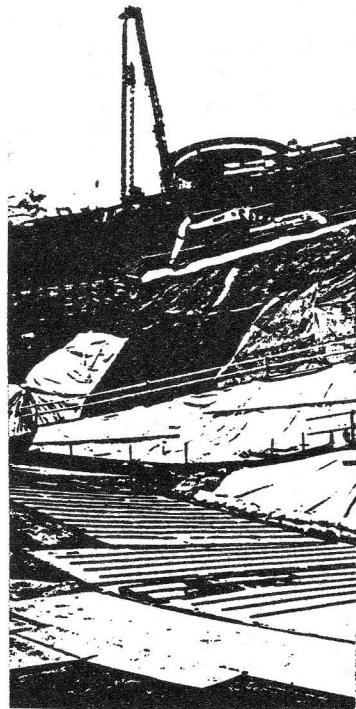
223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL. 045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

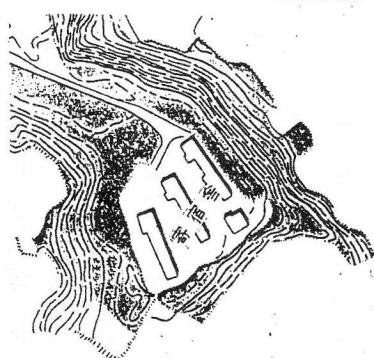
郵便振込口座番号 00250-2-74921

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会



慶大キャンパスの南西斜面に当たる  
箕輪町の一部を歩いてみた。

目次	ページ
日吉キャンパス周辺の今昔	2
幹事会報告	3
現行会則と会則(改正案)	4 ~ 5
連載日吉台地下壕	
当時の関係者の思い出話	23
運営委員会報告	6 ~ 7
総会のお知らせ	8



# 日吉台キャンパス周辺の今昔

幹事 中沢 正子

日吉台地下壕の隣接地が売却され、マンション工事が始まっていると聞いて、慶大キャンパスの南西斜面に当たる箕輪町の一部を歩いてみた。

斯く言う私は昭和三二年から三九年まで慶大の北寮にあつた日吉研究室に勤めていた。進駐軍の接收が解除されて数年がたつていて、まだ余韻が完全には消えていなかつた。今、テニスコートになつてゐる辺りに、進駐軍の家族が住んでいた家が残つていて、道路に重油を撒き、ほこりを押えたという、その重油が道路の端の草にこびりついていた。

当時中寮には、学生が寄宿し、南寮には斯道文庫が一時入居していたが、三田に移転

したあとは、一部を書庫として使用していた。

昭和三五年の狩野川台風の時には、網島方面の田圃が水浸しどなり、湖水と島の絶景を見る思いであつた。三九年には新幹線が営業を開始するが、試運転の音の記憶はない。

寮の西側は谷になり、その向うに松山があつた。ある時くよし(たきび)の火が風にあおられ、松の木の下草に燃え移り、山裾から炎が山頂めがけて駆け登つたことがあつた。一瞬の間に下草が黒くなつたが、それだけで終りほつとしたものだ。その山も切り崩され、三階建てのマンションになつていた。マンションの庭に立つと二棟の寮と円形風呂場がよく見える。鉄骨が

むき出しになつた風呂場の陰に南寮が見え隠れしている。

進駐軍はこの風呂場をダンスホールにしていたと言う。

あの頃、中寮の南側に斜めに突き出たコンクリートの建物があり、お風呂場として学生たちは使用していた。中

に階段がつづいていたので、

あれが地下に降りる階段だつたと思う。あの下にあのように大きな地下壕が存在すると

は知るよしもなかつたし、箕輪町の山裾から地下に入れる

ことなど全く知らなかつた。

昭和三七〇八年頃、川崎市がけて駆け登つたことがあつた。一瞬の間に下草が黒くなつたが、それだけで終りほつとしたものだ。その山も切り崩されて三階建てのマンションになつていた。マンション

の庭に立つと二棟の寮と円形風呂場がよく見える。鉄骨が

昔のことをあれこれ思い出

しながら、日大高校の方面から山裾を巡つてみると、南寮と円形風呂場の見える位置の

山の斜面がすっぽりと切り崩されているのが見えた。中段ではクレーン車が鎌首をもたげるように稼働していた。

あの鬱蒼とした山が簡単に切り崩される恐ろしい光景を見てしまった。とうとう来る

ものがきたと思った。このよううにしてあちら、こちらと傷口が大きくなり、抜きさしならぬ事態になるのであろう。

地主さんにしてみれば、何の神木不動にお参りに行つた時、近くにいた青年が昭和二〇年代に日大高校に通つて、よく地下壕に出入りし、いろいろな物が残つているの

を目撃したと話してくれた。

寮のある台地に登つてみると、楠が並木のように生い茂つて、道筋には、寮関係者以外

立入禁止の立看板があり奥まで行かれない。工事中の現場近くまでそつと近づいてみると南寮の南面三田近くで斜面が切り崩されている。果たしてマンションはどこまで迫り、高さはどの位になるのであるか。現在使用されていない南寮ではあるが位置関係が心配になる。

松井事△云報生口第八回  
一二月一七日午後六時  
慶心高校地學教室



防衛庁戦史資料室へ資料調査  
二、一月一三日「赤煉瓦倉庫  
を平和記念館に」事務局会議  
に出席

三、同一八日大清水高の生徒  
三人と先生五人による見学会  
平和に関する絵本作りのため  
四、同二日「平和のための  
戦争展かながわ」第一回実行  
委員会に出席

五、同日「平和のための戦争  
展よこはま」第一回実行委員  
会に出席

六、同二四日港北区区政推進  
課主催「日吉地区地域別懇談  
会」の「街づくり」の会で日  
吉台地下壕の保存について寺  
田・喜田が発言

七、同二九日「赤煉瓦倉庫を  
平和博物館に」事務局会議に  
出席

八、同三一日「赤煉瓦を・  
・」の署名運動をランドマー  
ク・タワー歩く歩道入口で行

会の結成10年を迎え、会則を改正して、新しい1歩を踏出して行こうと考えています。会則改正案のご検討をお願いいたします。

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会会則

1989.4.8 成立  
1990.4.7 改正

**第1条（名称）** この会は、「連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会」（略称：日吉台地下壕保存の会）といふ。

**第2条（事務局）** この会の事務局は、横浜市港北区下田町3-15-27 寺田貞治方におく。（電話：045-562-1282）

**第3条（目的）** この会は、次のことを目的とする。

1. 日吉台地下壕を、平和記念の史跡として保存する運動をすすめる。
2. 日吉台地下壕に関する調査研究をすすめる。
3. 日吉台地下壕を史跡として保存する意義を市民に広め、永く後世に語り伝えられるようにする。
4. 日吉台地下壕の保存と共に、戦争と平和の問題を考え、学習できる「平和記念資料館」を建設する運動をすすめる。

**第4条（会員）** この会は、会の目的に賛同し、会費を納入する個人ならびに団体によって構成する。

**第5条（事業）** この会は、次の事業を行なう。

1. 日吉台地下壕の保存に関する資料・パンフレットなどを作成し普及する。
2. 日吉台地下壕の調査・研究をすすめる。
3. 日吉台地下壕の見学案内・学習会・講演会・シンポジウムなどを行う。
4. 日吉台地下壕の保存・平和記念資料館の建設について、関係諸機関に要望していく。
5. その他、会の目的を達成するために必要な事業を行う。

**第6条（組織）** この会に、次の運営委員をおく。

**会長（1名）** 会を代表し、会務を統轄する。総会、運営委員会を召集する。

**副会長（若干名）** 会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

**幹事（若干名）** 事業の各部門を担当し、事業の推進に当たる。

**事務局長（1名）** 会の庶務を担当し、会計を管理し、会全体の運営推進に当たる。幹事を兼任し、幹事会、事務局会を招集する。

**事務局員（若干名）** 事務局長を補佐し、実務を推進する。幹事を兼任する。

**第7条（会計監査）** この会に会計監査（2名）をおく。会計監査は会計を監査し、総会に報告する。

**第8条（会議）** この会は、次の会議をもつ。

1. 総会 年1回開き、活動の総括、決算の承認、方針・予算・会費の決定、運営委員及び会計監査の選出、その他必要な事項について協議する。
2. 運営委員会 必要に応じて開き、会の運営、事業の推進について協議する。
3. 幹事会 必要に応じて開き、事業の推進について協議する。
4. 事務局会 必要に応じて開き、実務の推進に当たる。

**第9条（顧問）** この会は、運営委員の推薦によって顧問をおくことができる。顧問は会長または事務局長の諮問に応じ、必要な助言を行う。

**第10条（経費）** この会の経費は、会費とその他の収入によってまかなう。会費は、年間個人1口1000円、高校生以下1口500円、団体1口2000円で、1口以上とする。

**第11条（付則）** この会則は、1990年4月7日より施行する。

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会会則（改正案）

第1条（名称） この会は「連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会」（略称：日吉台地下壕保存の会）」という。

第2条（目的） この会は次のことを目的とする。

1. 日吉台地下壕を平和記念の史跡として保存するための運動をすすめる。
2. 日吉台地下壕に関する調査、研究をすすめる。
3. 日吉台地下壕を史跡として保存する意義を市民に広め、永く後世に語り伝えられるようする。
4. 日吉台地下壕の保存と共に、戦争と平和の問題を考え、学習できる「平和記念資料館」（仮称）を建設する運動をすすめる。

第3条（会員） この会は会の目的に賛同し、会費を納入する個人ならびに団体により構成される。

第4条（事業） この会は次の事業を行なう。

1. 日吉台地下壕の保存に関する資料、パンフレットなどを作成し普及する。
2. 日吉台地下壕の調査、研究をすすめる。
3. 日吉台地下壕の見学案内、学習会、講演会、シンポジウムなどを行なう。
4. 日吉台地下壕の保存および「平和記念資料館」（仮称）の建設について関係諸機関に働きかける。
5. その他、会の目的達成のために必要な事業を行なう。

第5条（運営） この会は運営委員（10名前後）によって構成される運営委員会によって運営される。運営委員は立候補し、総会において承認を得る。

第6条（組織） 運営委員会から会長および副会長を選出し、総会に報告し承認を得る。

会長（1名）は会を代表し、運営委員会を統轄し、総会および運営委員会を招集する。  
副会長（若干名）は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

第7条（事務局） 運営委員会には事務局をおく。事務局は総務と会計で構成される。その細則は別に定める。

第8条（会計監査） この会に会計監査（2名）をおく。会計監査は会の会計を監査し、総会に報告する。

第9条（総会） 総会は年に1回開き、活動の総括、決算の承認、活動方針および予算の承認、運営委員の選出、会長および副会長の承認、その他必要な事項について決議する。必要に応じて臨時総会を開くことができる。

第10条（会費） この会の経費は会費とその他の収入でまかなわれる。会費は年間で、個人は1口1000円、高校生以下1口500円、団体1口2000円で、1口以上とする。

第11条（顧問） この会には運営委員会の推薦によって顧問をおくことができる。顧問は運営委員会の諮問に応じて必要な助言を行なう。

第12条（付則） この会則は1989年4月8日に成立する。

この会則は1990年4月7日に改正され施行される。

この会則は1998年4月25日に改正され施行される。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の  
思い出話

23

終戦前後 2

軍関係の方々に伺います。

★久保寺重夫氏・日吉本町・

元東京警備隊第七分隊

終戦直後、他の部隊は書類を焼いたが、警備隊は焼くよう重要な書類がなつかたので余り焼かなかつた。

倉庫にあつた米や油、その他の食料品は下土官や予備学生が持つて行つた。トラックで運んだ人もいた。兵は何も持たずに戦後すぐ帰つた人が殆どである。兵はどこに何があるかも知らなかつた。

戦後一ヵ月残務整理で残つていた。警備隊に消防車が一

台残され、日吉には八九人残り、上の人は東京の方に移つた。後に東京警備隊は保安隊になつた。

★千葉朝夫氏・元海軍經理局

第三課

終戦の日、本土決戦をやる

というので、妻を切り、自分も死ぬつもりでいた。実際、

海軍省の中には、八月一五日

に腹を切つて死んだ人もいた。

現高校校舎の中庭に全員を集め、玉音放送を聞いた。二〇

分位茫然自失の状態であつた。

海軍省にいたら自決していた

と思う。いつの間にか三〇〇

人近くいた人が皆いなくなつてゐた。

副官から書類を焼けといふ命令が來た。現金出納帳はじめ、すべての書類を焼いた。

その後、G H Qから電話で、「戦争経費を報告しろ」と命

令を受け、部下と記憶を頼つ

て報告した。

★石原光氏・元海軍省艦政本

部・中尉

「昭和二〇年八月一〇日、

日本はポツダム宣言を受諾し

た」と、終戦の数日前に軍令

部から連絡があつた。軍令部

の情報部がアメリカの放送を

傍受して得たものであつた。

八月一五日の玉音放送は、

艦政本部で聞いた。終戦にな

つたので日吉への引越しは中

止、庭に大きな穴を掘つて、

機密書類をすべて焼却した。

まる二日かかった。

進駐軍が第一生命ビルに進

駐した時は、実弾を持つて艦

政本部の警備をしていて。除

隊したのは、九月三〇日であつた。

★本田直左衛門親英氏・元海

軍航空本部・中尉

昭和二〇年八月六日広島に

原子爆弾が落ちたあと、海軍省からも視察にいった。一発で広島が焼かれた事を聞いたが、原爆から身を守ためには、白いシーツをかぶれといわれた。八月七・八日頃、軍令部第三部よりポツダム宣言受諾のことを見た。

玉音放送は現在のバスケツトコートの辺りでスピーカーで聞いた。音が悪くよく聞取れなかつたが、情報を知つたので内容は分つた。東京警備隊の士官が酒を喰らつて暴れるのを見た。書類を地下壕から出た所の谷でドラム缶で焼却した。

戦後は、田村町の日産会館(鮎川義介)に入つて終戦処理をした。米軍が日本の飛行機を持つて行つたが、その時の引渡しの手続きなどの仕事をした。一〇月に除隊したが、もう一人の阿部氏は一二月頃までいた。

★御厨文雄氏・元海軍第三〇

一〇設営隊主計長

広島に原爆が落とされた後は、いろいろと情報が入つてきただので、終戦が近いことを知つた。

戦後、部隊が移動するたびに物資がなくなつて行つた。

とくに特務関係の人は多くの物資を持ち帰つた。下士官以上は殺されるというので、郷里に帰つた人を呼び戻したりした。

「八月末までに日吉から撤退しろ」と言われ、八月二〇日に部隊を解散し、兵には米・毛布などの物資を渡し復員させた。部隊全員に退職金をあげた。私は八月二七、二八日頃日吉を撤退し、ドイツ大使館の隣りにバラックを建てて残務整理をした。負けた時から石を投げられる兵もいて、水兵服など軍服を着て歩けなかつた。

★若林繁雄氏・元海軍人事局

・主計兵曹長

終戦の時、地下壕の前の広場に集まり、人事局長の川合少将の話を聞いた。「米軍が來ても乱暴しない。重要書類を焼いているようだが、機密など特別のもの以外は焼くな。

紙はこれから手に入らなくなつて玉音放送を聞いた。その

★菅谷源作・元連合艦隊司令海・空ができた。保安庁の時は、海上警備隊、陸上警備隊この時、自衛隊になり、陸・海・空ができた。保安庁の時は

吉にいて玉音放送を聞いて知つた。集まつて聞いた記憶があ

る。焼かなかつたものは戦後

処理のために海軍省に移した。

私は書類とともに昭和二〇

年八月下旬、補修した海軍省

に戻つた。退役したのは一二

月一日である。残務整理は復

員省に引継がれたので、その

まま従事した。昭和二二、二三

年頃経済検査所ができ、隠匿物資を取り締る検査官になつた。経済検査所に組織替え

になり、二六年春までいた。

その後、その頃できた警察予

備隊に入った。警察予備隊は二七年三月保安庁になり、二九年一〇月防衛庁に変つた。

た額や木箱などを作つていたが、どうしているだろうか。

★斎藤君子・元海軍軍令部第

三部理事生

終戦の時に「もう来ないでよい」と言われた。終戦は日吉にいて玉音放送を聞いて知つた。集まつて聞いた記憶がある。戦争が終つて嬉しいと思つた。もう怖い思いはしないですむと思つた。

私の家は東横線の学芸大学で、戦災にもあわず、疎開もしなかつた。特攻隊員になる予定だつた弟は四国にいて昭和二〇年九月に復員した。

(生協ニュース教職員版第五〇、五三号より抜粋転載)

増淵というボイラー係をしていた下士官は地下壕の前のカマボコ兵舎の先に三軒ばかりあつた農家の娘と戦後結婚なつた。経済検査所に組織替えした。

今野という木工の巧い兵曹長がいて、司令長官に頼まれ

